

ものがたり

Vol.2



ここにあるのはあたりまえの日常

“どう生きたい” “どう過ごしたい”

それぞれが『暮らす様』

「ここに暮らすとなんかいいんじゃないかい？」

人に伝えたくなるような日々を紡げるように

わたしたちは、トータルでお手伝いをさせていただきます

ここではひとつの“ものがたり”をご紹介します



今日の笑顔が未来につながる
地域の皆様ともに 20年

有限会社ティー・エス

(有)ティー・エスのサービス付き高齢者住宅

「ひまわり館」編



北斗市谷好にある「サービス付き高齢者住宅ひまわり館」は2階建。(平成22年開設)
海沿いにあり、2階の廊下の窓からは函館山など眺めのよい景色を楽しめます。
お部屋は約6帖で、個室内にはトイレ、クローゼットのほか、全てのお部屋にミニキッチンが備わっております。
広さも十分あるため、ご自分の馴染みの家具などを持参され入居される方も多くおります。
認知症の方、車いすを使う方、食事の介助が必要な方など、介助が必要な方も暮らしております。
日中、夜間共に職員が常駐し、安否確認や食事や排せつのお世話、郵便物の預かり、生活の相談を受けています。



また、訪問介護員も常駐しており、必要な方は通所介護や訪問介護などを利用することも可能です。(掃除、洗濯、入浴など)
食事は3食提供されますが、もちろんご自分のお部屋で好きなものを召し上がってもよろしいです。

～編集後記～

いつもありがとうございます。今回は「最期まで」をテーマに紙面をお届けさせていただきました。実は「看取り」や「最期まで」ということについては、ご質問をいただくことが多くございます。「自分や家族の最期をどのように迎えたいか」と早くから向き合っている方は少しずつ増えたように思いますが、「実際はどうなの?」「情報も少ないし…」という方も多くおられるのではないのでしょうか。今回のものがたりをご覧いただき、今後の暮らしの参考にさせていただけると嬉しいです。



お気軽にお問い合わせください!

有限会社ティー・エス

☎0138-83-5365



発行日：2021年6月5日
発行 者：有限会社ティー・エス 事業部
発行責任者：事業部 渡部陽子・水口清貴・桐原絵里子・木下恵・対馬紀子・佐藤友
〒041-0808 函館市桔梗2丁目1番32号(函館事務所) FAX：0138-83-5465
ホームページ <http://ts.bfweb.jp/>

～エピソード2～「看取り」

暮らし慣れた場所での最期を選択された

サービス付き高齢者住宅で暮らす 73 歳女性のものがたり

5 人兄弟の下から 3 番目として生まれました。

夫は 50 歳代で他界後、62 歳の頃に右脳梗塞を発症し左半身マヒとなりました。

実家の近くに自宅を構えており、当時まだ元気であった母親が介護を行っておりました。

ご本人は母親に頼りきりの生活になり元来の寂しがり屋の性格もあり、24 時間誰かにそばにいてほしいとの思いを強くありましたが、母親に疲労がたまり介護ができなくなりました。

そのため、ショートステイを利用しますが、職員や利用者とトラブルになることが数回重なり、ショートステイの利用ができなくなりました。

その後、特定施設に入所しますが、食後自室へ戻り頻回にナースコールを鳴らし、職員へ乱暴な言葉を投げかけるなどが続き、多入所者への迷惑行為とみなされ…

「環境を変えましょう」となり、サービス付き高齢者住宅への入居となりました。



サービス付き高齢者住宅へ入居後は車いすを使って生活をされ、自分で車いすを操作し好きな場所へ移動しており、食後は素早く自分の部屋に戻っておりました。部屋に戻ってからはコールを握りしめ職員を待ち、脳梗塞の後遺症で言葉が出てこないことや、呂律が回らないことがありましたが、日常生活の会話はできており交流を楽しまれておりました。また、自分でその日着る物や飲むものなど好きなものを選んでおり、安心しておだやかに日々を過ごされておりました。

ものがたり



今回のテーマは…

最期の最期まで馴染みの場所で



前は、サービス付高齢者住宅について「賃貸アパートに各自が見守りなど受け安心を得ながら思い思いの生活を送ることが出来る場所」で「自分で選んだ訪問介護や通所介護などの介護サービスを使って暮らすことができる」と説明をさせていただきました。

でも一つ疑問が…

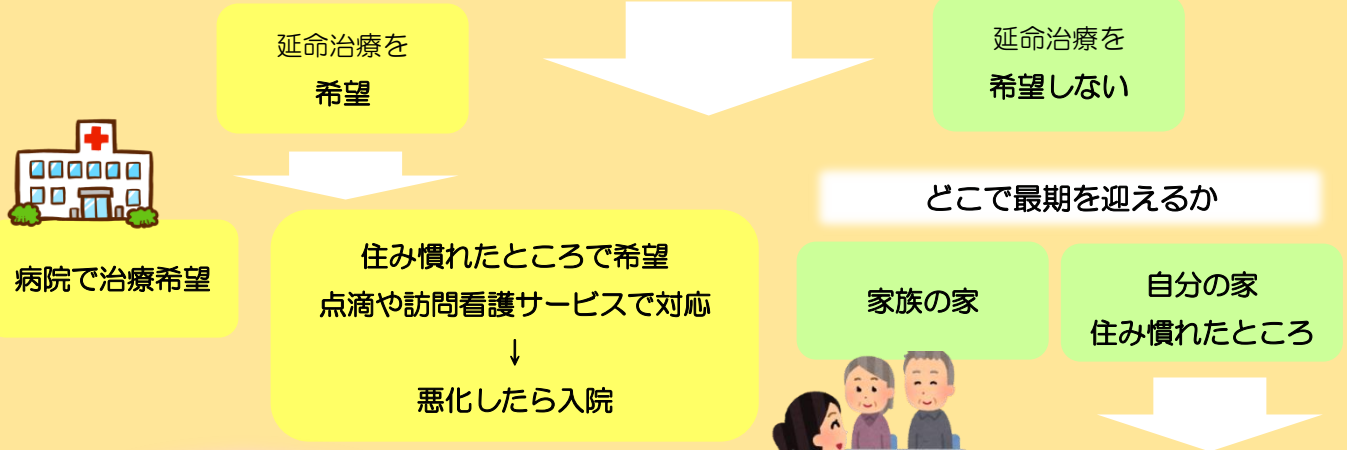


サービス付き高齢者住宅のことは理解できたけど…
「病気など体が思うように動かなくなってしまったら、いずれは他の施設へ移らなければならないのでは…」
「最期は暮らし慣れたところで迎えたいという思いがあります」

サービス付き高齢者住宅でも
最期まで暮らし慣れた場所での生活を送ることは可能です



看取りまで
【一連の流れ・例】
医師より、家族・本人へ延命治療をするかしないかの意思確認を行います



「どのような最期を迎えたいか」
確認をします



本人、家族、医師や看護師、ケアマネジャー、本人に関わる職員やヘルパーを交えてカンファレンス(話し合い)を行います。その際に医師やケアマネジャーよりサービス付き高齢者住宅でできること、できないことの説明を行います。

最期を迎える場所としてサービス付き高齢者住宅を選び移り住む人もおります

サービス付き高齢者住宅で実際にあった「ものがたり」をご覧ください